

13年度より15年度までの3年間、総合研修会において、オープニング・スピーチをさせていただき、私が日頃考えていること、時々のトピックスなどを、毎回数分で紹介させていただきました。

その中から、「旅」、「未来社会」、「ノーベル賞」、「科学と宗教」に関して、何回かの内容をまとめ、ここに掲載させていただきます。

内容は理事長としての公式のものではなく、飯田個人の見解であり、異見の1つとして参考にしていただければ幸いです。

なお使用しています写真はすべて飯田撮影のものです。



## 旅の目的

旅はロマンであるといわれ、好まれています。その目的は、物見遊山、リフレッシュ、買物、趣味、親孝行などの楽しみから、自分探し、広島やアウシュビッツなど悲しみを感じるものまでさまざまです。

スライド2はシベリア鉄道の東の起点ウラジオストックの駅舎と機関車です。与謝野晶子が鉄幹を追う旅で当地からシベリア鉄道に乗車した記念に、市内に晶子の歌碑があります。

## 新たな窓

「百聞は一見に如かず」ともいわれますが、現地に行くことは、読んだり、聞いたりすることと大きな違いがあります。

私は旅の最も重要な意義は、行くことにより、関心が生じ、理解が深まり、記憶にも残りやすくなり、自然と情報が集まり、より一層理解が深まることにあると考えます。

この様なことを表す適当な言葉を見つけられず、私はパソコンのOS-Windowsになぞらえ、新たな窓



(Window) を開くといっています。インターネットやパワーポイントの Window を開けばそれぞれの仕事ができるように、ヨーロッパやミャンマーの Window を開けばそこから、それぞれの国がみえ、情報が集まってくるのです。

## 偶然の面白さ

茂木健一郎は「旅は偶有性の最高のレッスン」といっていますが、旅は偶然の人・物語・文化・風景などとの出会いを演出してくれます。

MTCAの旅でも、ボストンに行きケープコッドに足を伸ばしたとき、偶然ジョン万次郎の寄宿先が近くのフェアヘーブンにあることを知り訪問しました。何人かのメンバーは帰国後も、ジョン万次郎の資料を勉強し、彼の困難を克服する精神、進取の精神、日本の近代化への貢献などを認識できました。

また台湾に行ったとき、ガイドに八田與一-の存在を教えられ、烏山頭ダムを急遽訪れ、不毛の地にダムと灌漑施設を作り、豊饒な農地を生みだし、大変感謝・尊敬されていることを知り感銘を受けました。

## 新たな窓 Window を開く

- Windows のアナロジー  
メールのWin、WordのWin、ExcelのWin、・・・
- 現地に行くことで新たな Window が開け
- 理解が深まる 「百聞は一見に如かず」  
欧米、ボストンとロス、インドの暑さ、ミャンマーの豊かさ
- 関心が生じる/記憶に残る  
ドイツ(過去の克服に真摯)
- 自然と情報が集まってくる  
縁尋の奇妙(安岡正篤) 関心があるので見過ごさない
- Windowの多さ  
人間の幅、奥行き、教養が豊か

スライド3